

# 舞鶴の文化遺産の活用・デザイン編集

瀨本めぐみ

## 1. パンフレット製作の経緯

本パンフレットは、地域貢献型特別研究 (ACTR) 「丹後地域の高大連携、世代間交流を核とした文化遺産活用」(研究代表東昇) の事業の一つとして製作したものである。目的は、2013年から継続している舞鶴市教育委員会・舞鶴地方研究会他と連携して行った調査の成果を多くの方に周知するためである。完成したパンフレットは、2018年9月29日(土)に舞鶴市総合文化会館で開催された第16回全国藩校サミット舞鶴大会にブース出展した際や、東舞鶴高校で高大連携授業を行った際に配布した。

## 2. 製作過程と内容

パンフレットは、A4 三つ折 6 ページ、発行部数 2000 部である。表面は主に課外調査や大学での実習など文化情報学ゼミの活動について、内面は ACTR の調査成果報告の概要を掲載している(図1・2)。8月下旬から作り始めて完成に約3週を要した。製作にあたって手書きした箇所もあるが、主に Illustrator や Photoshop を用いている。舞鶴幼稚園、堂奥・多門院「山口神社の祭礼行事」、多門院区有文書、幕末明治期の加佐郡における桐実生産、成生村の漁業争論、田辺藩の将軍への献上品の6つのコラムをゼミ生で分担して執筆、掲載した。

## 3. 表紙のデザイン

表紙にはたくさんの紋があるが、その中には実際に舞鶴に関係する大名の家紋もある。上から2段目右から2番目の家紋は京極家家紋で、その下にあるのが細川家家紋、さらにその右側にあるのが牧野家家紋である。それ以外の紋は、波や波紋といった海を連想させるものをデザインして作り上げた。下から2段目右から2番目の赤色の紋は、舞鶴市の市章である。またパンフレット全体の色味は舞鶴の海を連想させる青を基調としている。

## 4. 舞鶴幼稚園のパンフレット及びパネル製作、その他の活動

本パンフレットの中で舞鶴幼稚園を紹介しているが、1884年に開園した舞鶴幼稚園に伝えられた資料が2017年に舞鶴市の有形文化財に指定された。それにちなんで、幼稚園の歴史や所蔵資料を紹介するパンフレットや展示用パネルも製作した。また、文化情報学ゼミには「半木屋文蔵」というキャラクターがいるのだが、その兄弟という設定で「青ぶん」「赤ぶん」というキャラクターを考えた(図3・4)。青ぶん、赤ぶんはそれぞれ青の舞鶴、赤の舞鶴にち

